



TIFA会報

2013年10月10日
Vol.105
立川国際友好協会
発行責任者 斎藤 實
編集責任者 山崎員弘

Tachikawa International Friendship Association

フォロワーこそが組織の力

副会長 赤嶺令子

二学期の木曜教室が9月5日に始まりました。雨天の影響が受講生の少ない淋しいスタートでしたが、奇しくもその日は我会長の喜寿の誕生日と重なりました。一人のボランティアのアイデア



アで授業の合間に「Happyバースデー・・・」の歌を会長にプレゼントしたのですが、後日そのお礼に即興の自由律短歌を二首、頂戴しました。それらがあまりにも素晴らしく、皆様にご披露したい衝動に駆られ、ここに記しました。

・喜寿と 人は言うけれど 己の自覚なきままに

時の流れも元の水にあらず

・人生に ハブニングありと思わせる TIFAの仲間の

笑顔に感謝

(斎藤 實)

日本の秋は、気温やそのたまたまから学びには最適な季節です。教えること、教わることのそれぞれの向上を目指して過ごしたいものです。

TIFAのイベントも目白押しです。バス旅行、世界ふれあい祭り、イヤーエンドパーティー等の全体行事に加えて市役所関係で立川市在住外国人のための意識調査や市長との懇談会もあります。次年度の日程調整もそろそろですが、来年8月の教室移転を視野に入れながらの動きになります。

あらゆる組織にはリーダーとフォロワーがあり、その組織の優劣を決めるのは力関係においてリーダーが二割でフォロワーが八割といわれます。エネルギーなリーダー(会長)のもと、最後はフォロワー(ボランティア)の質こそが組織の力を決めると認識します。

20年前と少しも変わらない意欲と情熱が息づいているTIFAボランティアのお働きに感謝の思いいっぱいです。受講生の学びへの意欲とボランティアの情熱が見事にコラボして多文化共生のお手本となりますように願っています。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

立川で暮らす外国人 その2 その生活実態から

木曜教室 佐藤達夫

今回は、市内で暮らす外国人が生活する上での不安や困難と感じる点について述べてみたいと思います。ここで外国人から寄せられた声をあげると、

- A 日本語教室の事が分らなかった。もっと容易に知る方法はないか。
- B 東日本大震災後、地震など不安を感じる。防災訓練などに参加したいがどうしたら参加できるかわからない。またいつ、どこで訓練が行われているかもわからない。
- C 多くの外国人は、一人一人離れて暮らしており、同じ地域に同国人が必ずしもいるわけではない。友達もつくれず孤立しがちである。
- D 学校に通う児童を持つ外国人の親から寄せられたものに、PTAなど学校での会合に参加しても、言葉が壁となって、出席者の言っていることが分からないこともある。また、言葉が十分でないと、発言する勇気がでない。
- E 学校で、子どもの日本語力は、急速に伸びているが、おいてきぼりにされていると感じる。
- F 日本に30年以上住んでいる。息子が結婚し、お嫁さんになる人から手紙をもらった。文字がよく読めないし、返事も書けない。50歳からの手習いは、厳しい。——この方は、途中で日本語教室を辞めました。
- G 住んでいる地域の自治会に入りたいが、加入の仕方がわからない。
- H 子どもに手がかからなくなり、仕事をしたいが、日本語力が無いと思われ、低賃金で簡単な仕事しか見つからない。
- I 日本人の夫の介護、葬儀など自分が中心になってやった。介護保険の仕組みや葬儀のだし方などわからないことが多く、苦労した。

これ等から、子育ての悩み、仕事の確保、友達が欲しい、介護や老後など、まさに「ゆりかごから墓場」までの様々な問題を外国に暮らして解決していかなければならない大変さがよく出ています。

外国人は自分の母国と日本の二つの国のことを理解し、つなげるすべを知るグローバルな時代の貴重な人材にもかわらず、よりよく活かされていないことがわかります。

今回は、こうした問題に市はどのような施策を用意しているかについて紹介します。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

TIFAの活動が「きらり・たちかわ」に

たちかわ市民交流大学の情報誌「きらり・たちかわ」(9/20発行、Vol.25)で、TIFAの日頃の活動ぶりが紹介されました。多くの市民の皆さんに関心を持っていただけることを願いたいも

のです。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

☆☆TIFA 会員動向☆☆ (敬称略)

【入会者】

土曜：(9月) 庄野温夫(富士見町)、乙幡智子(柴崎町)、田中祐子(曙町)

【休会者】

土曜：(9月) 坂本篤子

【木→土曜移動】：(9月) 安楽国広

【退会者】 ご苦労様でした！

土曜：(9月) 平田貴司

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

中国・北京での日本語教師(第1報)

土曜教室 坂本篤子

土曜教室の坂本篤子さんが、8月下旬、北京にわたり北京理工大学外国語学院日語科で、日本語会話・日本概況・日本通史の教師として活動しています。今回はその第1報です。

この9月から、私は中国北京にある北京理工大学外国語学院日語科で、日本語会話・日本概況・日本通史の授業を担当しています。16日から授業が始まりましたが、中秋節や国慶節の休み(なんとこの学校は9連休)が続き、実際の授業はまだ2週しか行っていません。そこで、学生の様子などは次回お届けすることにし、今回は9月19日の中秋節の話を。

中国では、日本で言う十五夜を「中秋節」、そしてまたの名を「團らん節」と言うのだそうです。この日は家族全員が集まって食事やおしゃべりしたりする大事な行事だということです。ですからこの中秋節の連休に故郷に帰る学生もいるようで、帰省のため私の授業を欠席した学生が一人いました。

街ではずいぶん前から月餅があちこちで売られ、送ったり送ら



れたりするようで私ももらいました。翌20日になると全く姿を消していました。

さて満月を眺めようと外に出たところ、宿舎のサービス(従業員)の女性も出てきて、二人並

んで月を眺めました。そのうちにサービス員がぼつりと「今年の冬は寒くない」と言いました。わけを聞くと、「中秋の月がきれいに見える年の冬は寒くないのだ」と言うのです。

こういう言い伝えがあるのでしょう。今年の北京の冬の寒さがどうであれ、月をめぐってこんな話をしてくれるサービス員の気持ちがうれしく、なんだかほっとして、北京での生活が楽しみに思えた瞬間でした。

ススキもお団子もありますが、いい十五夜でした。カササギ(かがら)のけたたましく鳴く北京にて。

大内マサ子さん(木曜)のバルーンデコレーション

今号から「趣味拝見」と題して、会員の皆様の珍しい・特異な趣味などを取り上げていきます。

第1回は、1昨年、昨年のイヤーエンドパーティで[風船飾り]を担当した木曜教室の大内マサ子さんに話を伺いました。

——特に昨年のデコレーションが目立ったのですが、あれはどのような芸術？ということになるのでしょうか——

業界では「バルーンアート」(*Balloon art*)と呼んでいますが、風船(バルーン)を使って造成物をつくるもので、主にゴム風船等を複数個つなげて造成物をつくる(バルーンデコレーション)と(バルーンモデリング)を指します。

——もう少し具体的にいうと?——

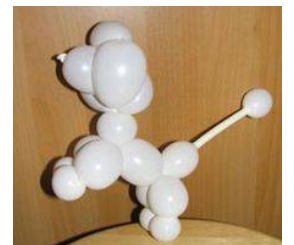
バルーンデコレーションの代表的なものには3種類ほどあり、



(ブーケ)は複数のヘリウム入り風船を花束のように束ねて形成したもので、イベント会場や店舗のディ

スプレイ、結婚披露宴の卓上装飾に用いられたりします。(アーチ)というのもありますが、これも同じような用途で、複数の風船をアーチ状に形成した装飾です。また、(コラム)というのは、複数の風船を柱(コラム)状に形成した装飾で、イベント会場や店舗の入口の両脇に設置することが多いですね。

一方、バルーンモデリングというのは、細長い風船(ペンシルバルーン)をひねる等をして、動物など生き物等の造成物をつくるもので、よく縁日や街角で大道芸としてやっているのを見かけますね。



——風船というと、子どもの頃の遊びだったのですが、風船の歴史はどうなっているのでしょうか——

風船自体は、古くは動物の腸や膀胱を膨らませたという記録もあるけど、現在のゴム風船とはほど遠いもので、日本では1857年、大阪で英国人が膨らませて売ったという記録があり、明治の終わりごろに国産化されたと言われています。

現在のゴム風船のように、水分を多く含んだ状態(ラテックス)

とはほど遠い異のものでした。

約60年程前、米国の科学者が、ラテックスを原料にゴム管を試作している時に、気まぐれにボール紙を猫の形に切り抜いてラテックスにつけ込んだところ、乾いた時に出来上がったのは、ちゃんと耳のついたキャットバルーンで、これをたくさん作って、ボストンの愛国記念日に売ったという話が残っています。

——大空に飛んでいく風船というとバルーンリリースです。華々しく楽しい光景ですが、環境汚染ではないかと——

天然ゴム（ラテックス）は、樹皮から直接採取するため、ゴムの木を伐採することもなく、土から生まれて土にかえる自然環境にやさしい製品なので、心配は無用です！。

——そもそも始められた動機は？——

長男が大学生の頃、大道芸の一つとしてやりだし、これなら私にもできそう？と思い、かれこれ10年前になるでしょうか。

——展覧会のようなものはあるのですか——

セミナーの全国大会があって、参加者がそれぞれ優秀作を投票して決めたり、レベルアップのためのプロによる講座もあります。

——必要な器具と言ったら——

風船各種、空気入れ。あとはイメージ力、創造力、感性が大事ですね。

——壊すときはどうするのですか、針で穴をあけて、、パンクさせる？——

そんなもったいないことはしませんよ、次の催しに使用したり、そのイベントの参加者にお土産としてプレゼントしたり。

どうも有難うございました。写真は今年の2月14日に、近所のケーキ屋さんに、TBS ラジオの生放送で、毒蝮三太夫さんが来た時の、バルーンデコレーションだそうです。（聞き手:山崎）

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

立川防災館見学

「外国人といっしょに防災について 知ろう！体験しよう！」

7月28日（日）午後から TIFA、たちかわ多文化共生センター、立川市共催の防災講座が行われました。講座には36名（うち外国人14名）、防災館には38名（うち外国人16名）、ほかに講座、防災館ともスタッフが11名参加されました。

最初に立川市役所で講座「立川での災害を考える」と題して、立川災害ボランティアネット矢野和孝さんから①「地震のしくみ」



②「首都直下地震の切迫性」 ③「時系列でみる地震災害の実際3・3・3の法則」 ④「災害を潜り抜け、繋がれてきた命を大切に」を話されました。この

講話には、英語、中国語、韓国語などの通訳をして外国人の理解を深めました。また講座参加者には、災害時の食料カンパンと携帯トイレが配られました。

講座内容を要約すると、関東地震から90年経ちM7クラスの地震が今後30年以内に発生する確率は、70%程度と推定され、この推定も各研究機関からさらに短い期間に起こる発生確率が上がったとも発表されています。

また首都直下地震で最も警戒されるのが東京湾北部地震で、立川市に關係する立川断層帯地震 M7.4クラス、多摩直下地震



M7.3クラス、立川市直下地震 M6.9クラスがあるそうで、まさに地震のオンパレード。なんだか怖くなります。

次に阪神淡路大震災の体験から「備え」を学ぶ

3・3・3の法則ですが、地震発生3分間は、自分の身を守るのが精一杯で、次の3時間では、被災者は家族や近隣の安否を確認し、安全な場所に避難しており、次の3日間に、外部からの救援活動が徐々に始まりようやく外部との接触が可能になってきたとのことでした。

要は、それまでは自力での避難生活であり、この時間軸から最低3日間は、助けはあてにならないと考えなければならないそうです。また地震での最初の救助者は、近所の人たちであり特に生き埋め者の救出は61%が近所の人であったそうです。

ある外国人の方が、私に東日本大震災の時、ビルの30回で仕事をしていたがビルが大きくしかも長く揺れとても怖かった。また携帯が全く繋がらなかったと体験を話してくれました。

この講座後、会場を防災館に移して、3班に分かれ、地震体験、煙体験、応急救護訓練、消火訓練、防災ミニシアターなどを体験し、応急救護では AED の操作を学び大変参考になりました。参加された外国人も親子連れもおり、楽しんでいました。

災害の多い日本で、安心安全な生活をするには、これからもこのような企画をし、多くの外国人の防災意識を啓発していく必要を感じましたが、講座内容が難しすぎた？という意見もあったようです。（TS 記）

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA



ネパールから来日したばかりの Kunal Khatri さんとの木曜教室での話。

「日本ではそろそろ夏休みです、7月21日～8月末だけど、ネパールでは？」

「4月からです！」

「なにそれ！ほんと！？、緯度的には日本の奄美大島と変わらないのに、、、」

なんとそれは、我々が日頃、西暦で話をしているからであって、ネパールでは**ビクラム暦**が公用暦となっていることが解りました。

即ち、西暦2013年1月1日は、彼等の国では、2069年9月15日だったのです！！（2013年9月26日は2070年6月10日でした?!）

ネパールでは公式の暦として太陽暦の**ビクラム暦**（略号はB.S.）が採用され、それまで使用されていた太陰暦に代えて、チャンドラ・シャムセル首相・大王がB.S.1961年の新年（西暦1904年4月）から、太陽暦のビクラム暦を公式の暦として用い始めたとされる。西暦4月の半ば（年によって1～2日のずれが生じる）を新年とし、ひと月の日数は29日～32日の月があり、前半の月が多めの日数、後半の月が少なめの日数という傾向があるものの、一定していないので西暦とはずれが生じるのは当然。近年都市部を中心に西暦の使用も広まっているものの、実生活においてはビクラム暦の方が馴染み深いという。

毎年、ビクラム暦の公式カレンダーは西暦1月頃、ネパールの天文学や占星術の専門家が会議し、公式見解が発表される。それを政府が、追認公認して発表となり、政府機関や関係者だけに配布されるという。

また、休日に至っては、ネパール政府を中心に、全国的に休日となる祝祭日、女性だけ休日となる祝祭日、カトマンズ盆地だけ休日となる祝祭日、公務員だけの休日、教育機関だけの休日とあるそうで、なかなか不思議な国のようだ！！

因みに、我々は、地球が太陽の周囲を1公転する時間を1年とする暦（代表的なのが**グレゴリオ暦**）で、365日を1年と定め、4年毎に閏年をおき、日本では明治45年12月から採用された。西暦元年はイエスキリストが誕生したとされる年を紀元元年とされている。（KY記）

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

☆☆各種行事報告☆☆

1、納涼パーティ(木曜教室)

8月29日、柴崎学習館の調理室で納涼パーティーが行われ、



約30名が参加しました。斉藤会長の「食同源、バランスのとれた食事が病気の予防と治療に役立ち、[食]の字は、「良」と

「人」からでき、ここに集まった人は皆良人、善人の集まりで～す」の挨拶で、韓国姜さんの「ホットック」(日本でいうオヤキ?)、英国クレアさんのTiffien(チョコレートケーキ)、中国奚さんの本場水餃子、ブラジルの「パステイス」(パイ生地で包んだ餃子?)、そして日本からは冷麦を美味しく頂きました。お腹いっぱいになった後の合唱(昨年からの実施)では、オカリナの伴奏で「富士の山」と「故郷」を歌い散会に。(KY記)

2、スペシャル学習会(松中教室)

本年度2回目のSPECIAL学習会が9月21日(土)に行われ、受講者・ボランティア合わせて20名が集まり4組に分かれて、2種類のゲームをして得点を競いました。



「人間ボーリング」は目隠しをしたボール役の人が仲間の声の誘導で、枠内に立っている相手チーム全員にタッチして倒す

まで何分何秒かかるかを競うゲームです。

指示者の声が最初は「右、左」程度だったのが終盤には「回れ右」や「前へ三歩ダッシュ」などだんだん複雑になって大変にきやかになりました。

「ほんものは誰だ？」は相手チーム全員がコップの水(一つだけお酢)を飲み、誰がお酢を飲んだのかを当てるゲームでしたが、受講者・ボランティアともに役者が揃っていて、水なのに酸っぱい顔をする人がいると思えば本当に咳き込んでしまう人もいてこれまた大変な盛り上がりで、1時間半の間、楽しく過ごしました。

(ST記)

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

お知らせ

10、11、12月の行事

- ・外国籍在住者対象アンケート(10月～11月)
- ・秋のバス旅行(10/20、鎌倉大仏、新江の島水族館方面、企画渉外部)
- ・ゴミ有料化出前講座(木曜; 10/10、土曜; 10/19、松中; 10/26日)
- ・世界ふれあい祭り(11/3、4)
- ・運営委員会(11/16)
- ・土曜教室研修会(11/16)
- ・イヤーエンドパーティ(12/21、企画渉外部)